

「地熱発電発祥の地」の整備を

1925年(大正14年)11月13日、日本で初めての地熱発電が成功。そのときの泉源の跡が九州横断道路沿いの坊主地獄の横の林のなかにあります。平野市議は「整備して公開を」と提案しました。



日本初の地熱発電の泉源跡

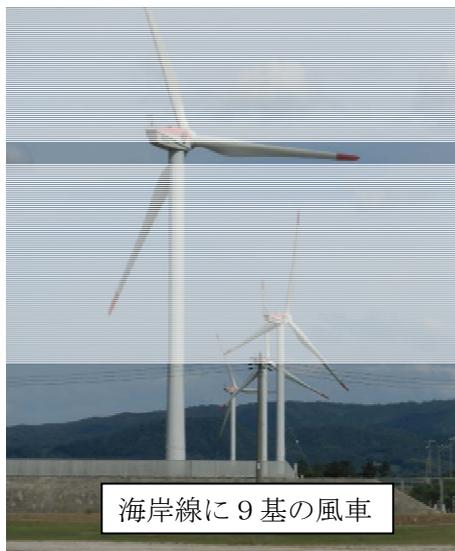
この提案に対して、市当局は「別府市は、丸ごと博物館構想をすすめており、資料などを収集することでも、必要ならば整備したい」と答弁しました。

市長が初めて「原発ゼロに向けて」と答弁

平野市議はこれまででもくり返し「市長として原発ゼロをめざす立場を表明すべき」と求めてきました。9月議会の答弁で市長は初めて、「将来のエネルギー政策のあり方として、原発ゼロの方向で再生可能エネルギーの推進を考えています」と述べました。

平野市議は「地熱発電発祥の地のふさわしく、原発ゼロをめざし、自然エネルギー推進の別府市を全国にアピールを」と提案しました。

風力発電でまちおこし 鳥取県北栄町を視察



海岸線に9基の風車

売電収入は年2億5千万円

町のスローガンは

「未来の子ども達のために」

平野市議は8月末、鳥取県北栄町を視察しました。この町では、原発事故以前から町をあげて風力発電にとりくんできました。町長さんは「脱原発をめざす首長会議」呼びかけ人の一人で「未来の世代が安心して暮らせる世界にしたい」と語っています。

平野市議は市議会で「別府市でも本格的なとりくみを」と求めました。

売電収入は年2億5千万円、経費は年1億円。借金返済が終われば子ども達のために使えるという。発電量は6,600戸分、町の5,200戸を上回っています。